

みなと新潟



新潟港

2020年10月
No.93



(一社) 新潟港振興協会 マスコットキャラクター
みなと坊や エール君

一般社団法人 新潟港振興協会

◇ 令和2年度定時総会開催（令和2年6月1日）	2
◇ 会員から、こんにちは！	5
◇ エール君の港町気分	6
◇ みなと☆おすすめ情報	7
◇ 連載 新潟港のあゆみ（No.11）	9
◇ 新潟港貿易統計	10
◇ 事務局日誌/編集後記	17



令和2年度定時総会開催 (令和2年6月1日)

6月1日（月）に令和2年度定時総会を新潟市のホテルイタリア軒において開催いたしました。今年度の総会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月7日に発令された緊急事態宣言を踏まえ、会員相互の感染リスクを回避するため、会員の皆様に対して、“総会会場への来場を見合わせ、事前に書面による議決権行使”を推奨させていただき開催いたしました。

このため、総会は中原会長、湯田専務理事及び会員2名のみの出席となりましたが、原案通り全ての議案が承認され、無事に総会を終えることができました。



【会員及び定足数】

会員数	169名	定足数 85名
出席会員数	2名	（理事を除く）
書面による議決権行使数	143名	（賛成：143名 反対：0）

◆ 総会議事

- 議案第1号 令和元年度事業報告並びに収支決算報告について
- 議案第2号 令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- 議案第3号 理事並びに監事の補欠選任について

◆ 令和2年度事業計画

1. 新潟港及び周辺施設整備の促進

新潟港利用の振興及び港湾計画に基づいた整備促進に向けた要望活動を新潟港関係者及び会員各位と一体となり積極的に行う。

（1）日本海側港湾の機能別拠点としての新潟港東港区の機能強化

- ① 防波堤（西）の洗掘対策推進
- ② 東西埋立地護岸の老朽化（沈没事故）対策
- ③ 国際海上コンテナターミナルの機能強化

（2）新潟港西港区における港湾機能の維持と施設整備

- ① 第二防波堤整備の促進
- ② 浚渫事業の推進
- ③ 万代島の施設整備に向けた検討

（3）西港区への大型クルーズ船の寄港に向けた施設整備の検討

（4）新潟港海岸（西海岸地区）浸食対策事業の推進

2. 新潟港の振興と利用促進

新潟港の拠点性向上に向けて国・県・関係自治体・企業と連携した活動を行う。

（1）サービス機能の拡充と利用促進

- ① 新潟港の抱える課題や現状等について、ヒヤリングや意見交換を通じ、新潟港の利用及び整備促進に向けた取り組みを行う。
- ② 船社、荷主企業、貿易関連企業等に向け、新潟港の情報を発信し、利用促進に繋げる。
- ③ 船社・企業訪問による輸出貨物の確保とともに会員の拡大を図る。

（2）新潟東港コンテナターミナル活性化協議会への参画

新潟港の利用活性化に向けて、「新潟東港コンテナターミナル活性化協議会」と連携し集荷活動・新規航路誘致・既存航路の拡充の取組を行う。

（3）新潟港港湾BPC協議会への参画

地震津波等により災害が発生した場合に連携し効率的な災害対応を行い港湾の機能低下を最小限に止めるとともに、早期の機能回復を図るBPCの取組に参画する。

（4）新潟県・新潟市・聖籠町との共同事業

- ① 新潟港パンフレットなどの作成
- ② 県外企業に向けた新潟港セミナーの開催
- ③ クルーズ客船誘致と受入れ活動の推進

（5）研修等の開催

会員企業を始めとする貿易に関わる企業等を対象に国際物流に関する知識の向上、普及、啓発を図るため貿易基礎講座を開設する。

(6) 関係団体との協力

港湾に関する団体の諸活動に参画し、港湾整備促進に向け意見を反映させる。

主な団体／(社) 日本港湾協会、日本港湾振興団体連合会

日本海北陸地区港湾整備促進連合会、新潟県港湾協会

3. 広報宣伝活動

(1) 広報活動

会員間での現状認識や情報を共有するためのホームページにより事業活動や航路情報、港湾関連行事を発信する。

4. 港湾整備・運営などに関する調査研究

- (1) 新潟港の利用・整備に関する各種委員会協議会への参画
- (2) 北陸地域国際物流戦略チーム幹事会への参画
- (3) 東北国際物流戦略チーム本部会への参画

◆ 役員名簿（令和2年6月1日現在）

会長	新潟市長	中原 八一
副会長	(一社) 新潟県商工会議所連合会会頭	福田 勝之
副会長	(株) リンコーポレーション代表取締役社長	南波 秀憲
副会長	北越コーポレーション（株）取締役洋紙事業本部新潟工場長	大塚 裕之
専務理事	(一社) 新潟港振興協会	湯田 孝男
理事	(株) コメリ代表取締役社長	棒 雄一郎
理事	佐渡汽船（株）代表取締役社長	尾崎 弘明
理事	全農グリーンソース（株）新潟支店長	柿村 一夫
理事	新潟経済同友会幹事	渡邊 敏彦
理事	新潟漁業協同組合代表理事組合長	小田 政市
理事	(株) 新潟トレーディング取締役	富井 俊明
理事	日本海エル・エヌ・ジー（株）取締役社長	武田 真二
理事	日本海倉庫（株）代表取締役社長	遠藤 真也
理事	日本通運（株）新潟支店長	高橋 哲哉
理事	富士運輸（株）代表取締役社長	小林 一郎
理事	(株) 本間組代表取締役社長	本間 達郎
理事	三菱ガス化学（株）新潟工場長	菅野 公一
理事	三菱商事（株）新潟支店長	吉田 健
理事	(株) 第四銀行常務取締役営業本部長	牧 利幸
監事	新日本海フェリー（株）執行役員新潟支店長	笠原 力
監事	新潟商工会議所常務理事	能登谷 巍

(敬称略)

会員から、こんにちは！ No. 3

新潟港振興協会の会員の皆様からリレーで、各社の沿革や事業の紹介及びPR、そしてこれからの抱負、さらに新潟港との関わりや、今後の新潟港に期待する事柄などについて投稿していただくページです。

今回の投稿は、『(株)リンコーポレーション』です。

こんにちは 株式会社リンコーポレーション です。

弊社は、1905年（明治38年）、新潟健康舎として牧畜業を営む会社として創業いたしました。その後、新潟西港に日本唯一の私有港湾あります「臨港埠頭」を建設し、港湾運送事業の基礎を築きました。新潟港の隆盛に伴い1965年に新潟東港が開港し、弊社も従来からの新潟西港、臨港埠頭に加え新潟東港にも進出し、現在に至っております。



< 臨港埠頭 >

本州日本海側最大の拠点港であります新潟港には、コンテナ貨物、散貨物、木材、エネルギー関連貨物と多種多様な貨物の取扱いがございますが、弊社はそれら貨物に対応すべく、貨物の積卸を行う本船作業、通関業務、倉庫保管、配送業務等、港湾作業にかかるすべてのサービスを一貫してお客様にご提供し、その長い歴史と積み重ねてきた実績で、お客様からの信頼を頂いております。弊社は、これからも、新潟港のリーディングカンパニーとして、効率的かつ安全な物流フローの構築、フレキシブルなサービスの提供に努め、新潟港の発展に寄与して参ります。また、港湾運送事業以外にも不動産、機械営業、商事、環境事業、関連企業でのホテル経営など、幅広い事業を展開し、引き続き地域社会に貢献して参ります。

「私たちは お客様の心を大切にし 未来を見つめ 新しい社会 豊かな人間環境を創造する企業をめざします」の企業理念のもと、これからも皆様に信頼される地元企業として、お客様に最高のサービスを提供するべく、役職員一同、尽力して参る所存ですので、今後ともご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

弊社の新潟港との歩みについて、弊社ホームページでご覧いただければ幸いです。

●歴史を紡ぎ、その先へ

URL: <https://www.rinko.co.jp/company/history/>

『リンコー 歴史』で検索



エールくんの 港町気分 NO. 3

※ エール君が、港の魅力を紹介します。

「みなとの雰囲気」を味わいながら、信濃川左岸エリアを歩いてみましょう！

今回は、毎日様々ななかたちで多くの市民が利用している“白山公園”“やすらぎ堤”を含む信濃川左岸ウォーキングエリアの魅力について取り上げました。

私はその日の気分や天候によって歩く時間や道取りを変えながら“白山公園一りゅーとぴあ一やすらぎ堤一みなとぴあ”と繋がる全長約2.5kmの信濃川左岸エリアの散策コースを歩いています。

春先のまだ肌寒い時期の白山公園では梅が鮮やかに開花します。赤・白・ピンク色に咲き誇る梅を眺め、もうすぐ開花を迎える桜のつぼみをチェックしながら歩いますが、日に日に春の到来が強く感じられます。

桜が開花すると、毎日見かける帰宅途中のサラリーマンや学生、市民ランナーや犬と散歩する人達の姿がかかる消されてしまうほど多くの人々がこのエリアを訪れ、1年で最も華やかな出張やかな時期を迎えます。様々な年代のたくさんの人々が桜を見ながら楽しそうに散策している光景を目にするとき、幸せな気分に満たされます。

このコースの起点・終点となる“白山公園・りゅーとぴあ”“みなとぴあ”では、目を引く建物の造形や庭園の樹木などを眺めながら歩いています。コースの途中は“昭和大橋一八千代橋一万代橋一柳都大橋”的4つの橋が“やすらぎ堤”で結ばれており、両岸の映り変わる景色や水辺空間を眺めながら歩いています。夕刻に川沿い歩くと、暑い夏場でも心地良い風が体を癒してくれます。

昭和大橋一八千代橋の区間ではよくカモの群れを目にします。また、八千代橋を過ぎ、夕暮れ時に万代橋付近を歩くと、万代橋の仄かな照明が川面を照らし、川向うの万代地区のビル群の明りと相まってとても綺麗な光景を目ることができます。さらに歩みを進め、万代橋を過ぎると一気に港町気分が漂ってきます。両岸の水辺は岸壁に変わり、大小様々な船が停泊しています。また、岸壁付近にはウッドデッキやベンチなどが設置されていて、港の雰囲気を感じながら散策ができます。日中にはベンチに座って船やカモメたちが元気に水面を飛び交う姿を目にしながら、ゆったりとした時間を過ごすことができます。



三連アーチが美しい柳都大橋を過ぎると、対岸に大きく佇む西港のランドマークである「朱鷺メッセ」の全貌とその先にある港の景色が目に入ります。さらに歩みを進めると、今から約110年前に建てられた二代目市庁舎の面影をイメージした“みなとぴあ”に到着します。ここには150年前の税関庁舎や石倉、堀などが再現されていて、港の歴史を感じられる空間となっています。また、付近の岸壁には石畳が敷かれていて港を行きかう船や港の様子を眺めるには絶好のロケーションとなっています。



みなと☆おすすめ情報

GOTOトラベルを利用して

船の旅と観光を楽しんでみませんか！

● 佐渡汽船さんからのおすすめ情報

● 新日本海フェリーさんからのおすすめ情報

新潟港発着 様式会社 **ヴェヌス・トラベル** Go To トラベル事業支援対象
新日本海フェリー就航50周年特別企画

北海道いくらディナーと味わい紀行ドライブパック

新潟港発着 小樽港・苫小牧東港着 4日間

新潟港発着 小樽港・苫小牧東港着 4日間

ご夕食は オーセントホテル小樽

北海道産いくら秋の味覚ディナー

和食 洋食 花咲蟹 ローストビーフ デザート盛り合わせ

時鮭根子焼き 小樽拉麺 あしらい一式 海老煮奇揚げ 芙蓉、百合根、南瓜の衣揚げ 北海道産なつぼし 香の物 味噌漬

鰯貝山夷漬け 旭芋、昆布、山芋の衣揚げ 帆立 ご飯

牡丹海老 ご飯

帆立 ご飯

サーモン ご飯

仕入れ地元の山菜がおまかせでござります。

ホームページでも予約受付中！

旅行企画・実施 様式会社 **ヴェヌス・トラベル** 新潟営業所
TEL: 025-273-2230 FAX: 025-271-0249
<http://www.venus-t.jp>

お支払い実額 おふたり様で 80,000円

※支払実額は2,500円必要となります。(現地でお申し込みください)

出発日

行程は最大**10日間**まで延長OK!

**2020年11月1日(日)～
11月30日(月)出発**

※フェリー運航日など詳しい日程は裏面をご確認ください。

旅行代金(大人・小人同額)

デラックスA/B(個室) 旅行代金 **おふたり様で**
2~3名定員 122,000円
専用テラス・洗浄機能付トイレ
冷蔵庫付
専用テラスはデラックスAのみ

↓

お支払い実額 **おふたり様で**
2名様用 80,000円

スイート(個室)

2名定員 旅行代金 **おふたり様で**
専用テラス・洗浄機能付トイレ
バス・独立洗面所・冷蔵庫付

↓

お支払い実額 **おふたり様で**
124,000円

船内は全食付き(規定回数分)

新日本海フェリー デラックスA/B 往復

オーセントホテル小樽 ツインルーム 1泊利用

5m未満乗用車 1台往復

+ カテゴリ別料金の特典 宿泊時の駐車場料金無料

夕食は客室でのご提供となります。(ルームサービス)
貸し、貸供室が簡便の場合、レストラン(または宴会場)でのご提供となります。
レストランの食事「17:00開始」と「19:00開始」の2回施設となります。

ご朝食希望の方は、おひとり様2,500円必要となります。(現地でお申し込みください)
客室は全室禁煙となります。

1. この旅行商品はGo To トラベル事業の支援対象です。

2. 旅行代金からGo To TRAVEL事業による給付金42,000円～66,000円を差し引いた金額がお客様の支払い実額となります。
地域共通クーポンについては旅行代金総額の15%相当を付与いたします。

3. 支援金の受領について: 国からの給付金はお客様に対して支給されます。
当社は給付金をお客様に代わって受領(代理受領)いたしますので、
お客様は旅行代金に対する給付金を差し引いた「お支払い実額」を
お支払いいただきます。尚、お取り消しの際は旅行代金を基準として所定の
給付料を申し受けます。お客様は当社による代理受領について了承のうえ
お申し込みください。

4. 給付金がなくなり次第、販売終了または、旅行代金での販売となります。

※2名様からの出発保証(お申込は2名以上でお願いいたします。) ※添乗員は同行いたしません。 ※価格はすべて税込です。 ※写真はイメージです。

スケジュール(2020年11月1日～11月30日出発)

		行程	新日本海フェリー	=マイカー
1日目	新潟港(①12:00発または②22:30発)	【船中泊】	X X X	
2日目	①小樽港(04:30着)または③苫小牧東港(16:45着) 北海道を愛車でドライブ! = オーセントホテル小樽・夕食	【小樽泊】	X X O	
3日目	北海道を愛車でドライブ! 小樽港(③17:00発)または④苫小牧東港(19:30発)	【船中泊】	X X X	
4日目	新潟港(③09:15着または④15:30着)		X X X	

新潟港のあゆみ

～新潟の近代化と港～ No.11

千年以上前からその名を歴史に残す『新潟港』

長い歴史を経て新潟港は『湊』から『港』へ変わってきました。

ここでは、高度成長を遂げた昭和期以降の新潟西港・新潟東港の様子を振り返ります。

(新潟市編「新潟港のあゆみ」より抜粋)

第3章 変貌する新潟港

第4節 西港再開発と東港開発の振興

【万代島再開発（前号からの続き）】

平成元年3月に策定された万代島再開発構想は採算性の見通しや、翌平成2年の株価暴落に始まった「バブル崩壊」後の不況で実現しなかった。平成6年には倉庫群の移転が始まったが、参加企業の足踏みが続き様々な開発構想が出された。当初計画になかった国際交流施設を設けることで、基本計画が固まったのは平成8年であった。その後、ホテルやオフィスなどが入る高層ビルを造る民間会社が設立され、平成12年10月に県立の新潟コンベンションセンターと同時着工された。

新潟西港のランドマークにもなる高層ビルは地上31階建てで、5階に県立万代島美術館、最上階に展望室の公共施設が配置された。コンベンションセンターは国際会議場・メインホール・国際展示場などからなり、このうち面積7800m²の国際展示場は各種イベントの開催ができるように設計された。この2つの大型施設はエントランスで結合され「朱鷺メッセ」の名で平成15年5月に開業し、「日本港湾協会定期総会」の開催を皮切りに施設利用が開始された。また、遊歩道や緑地を備えた岸壁の整備も進められ、万代島と信濃川左岸に新たな親水空間が生まれた。

【新潟みなとトンネルと柳都大橋】

昭和61年の港湾計画改定で設置が決まった臨港道路入舟臨港線（港口部ルート）は、新潟西港入舟地区と国道123号とを結ぶ道路であった。このうち、西港の東西を結ぶトンネル部分が運輸省直轄で先に事業化された。信濃川河底を通過する850mは沈埋トンネル工法であった。平成元年、新潟東港にトンネル本体となる沈埋函を建設するドライドッグの掘り込みが始まり、工事が着手された。沈埋函8函は長さ

100m余り、幅約29m、高さ約9mであった。平成12年6月に曳航されてきた8函目が河底下に据えられた。この間、沈埋トンネルの換気や制御を行う立坑の建設工事が進められた。

万代島ルートは、平成4年に都市計画決定された。都市計画道路万代島ルート線は新潟バイパス紫竹山インターチェンジと寄居町の日本銀行新潟支店前とを結ぶ道路であった。このうち、万代橋下流橋が建設省直轄で先に事業化された。橋の位置は万代島の付け根に近く、昭和40年代に「みなと大橋」の名で計画され、中止になった位置より少し上流であった。橋の形は橋桁を水面から7.5mの高さにし、三連のアーチを強調したものに決まった。平成10年10月、橋台と橋脚工事の起工式が行われ、長さ212m、幅40mの万代橋下流橋の建設が始まった。

港口部トンネルと万代橋下流橋は開通前に名称が募集され、「新潟みなとトンネル」と「柳都大橋」の名で平成14年5月19日に同時に開通した。ともに全体計画のうち一部区間の開通であったが、市中心部の活性化や防災、交通緩和などの期待を担っての開通であった。

【東港コンテナ埠頭に建設】

昭和61年の港湾計画の改定は、新潟東港ではコンテナ埠頭の整備や、東水路の規模縮小、南浜地区に漁船用の埠頭を新設することなどが主であった。コンテナ輸送は鉄道・自動車輸送への切り替えに便利だけでなく釜山・香港などのハブ港と呼ばれる国際的な大港湾での積み替えで、世界各地の港と出入貨できるのが特徴であった。そのため、国際定期航路はコンテナ航路が主流になってきた。

東港には西埠頭にコンテナ荷役用のガントリークレーンを備えた埠頭が昭和59年に一本作られていた。県や市は西埠頭をさらに大規模な国際海上コンテナターミナルの規格に整備することを国要望していた。（次号に続く）

◇ 2020年上期（1～6月）新潟港貿易概況＜速報＞

● 輸出額

(単位：百万円)

月	2020年	前年	増減
1月	7,868	7,562	104.0%
2月	9,399	8,880	105.8%
3月	10,079	9,355	107.7%
4月	9,789	10,702	91.5%
5月	7,456	8,095	92.1%
6月	7,031	9,124	77.1%
計	51,623	53,718	96.1%

<四捨五入の端数の関係で、各月の合計が計と一致しない場合があります。>

※参考 日本全体の上期輸出額（単位：億円）

323,645	382,492	84.6%
---------	---------	-------

● 輸入額

(単位：百万円)

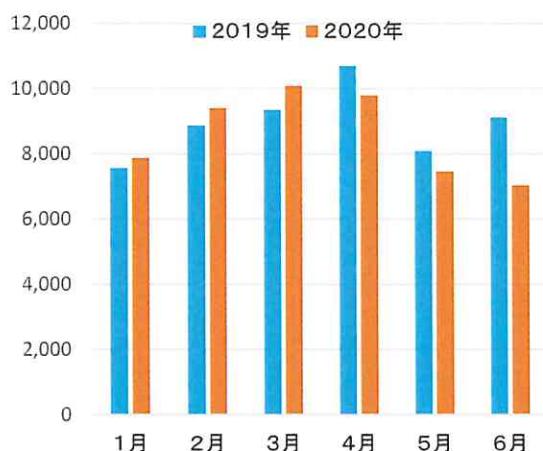
月	2020年	前年	増減
1月	47,645	61,725	77.2%
2月	36,605	52,983	69.1%
3月	45,667	41,627	109.7%
4月	37,109	41,773	88.8%
5月	32,453	37,163	87.3%
6月	28,131	37,942	74.1%
計	227,609	273,212	83.3%

※参考 日本全体の上期輸入額（単位：億円）

346,613	391,455	88.5%
---------	---------	-------

(百万円)

月別輸出額



(百万円)

月別輸入額



【新潟港の上期の輸出額】

コロナウイルスの世界的な感染拡大が進み世界中の人の動きや経済活動が制限される中、前年同時期に比べ電気機器や自動車関連の輸送用機器の輸出が伸びたことなどにより、新潟港の1～3月の輸出額は前年同月を上回ったが、4月以降は前年に比べ徐々に輸出額の減少が著しくなった。

上期全体で見ると、日本全体では前年比84.6%であったが、新潟港では96.1%と小幅な減少で乗り切ることができた。

【新潟港の上期の輸入額】

1～2月の輸入額は前年を大きく下回ったが、3月には石油ガス類・化学製品などの輸入増加により一時前年を上回った。4月以降はコロナウイルス感染拡大の影響などにより再び減少傾向が顕著になった。

上期全体で見ると、日本全体では前年比88.5%であったが、新潟港では前年比83.3%と厳しい状況が続いている。

【7月以降の輸出入額（速報）】

新潟港の7月以降の輸出入額（速報値）を見ると、7月の輸出額が前年比82.1%、輸入額が前年比82.0%であり、8月は輸出額が前年比95.2%、輸入額が前年比70.3%となっており、輸出は回復基調が伺えるが、輸入は引き続き厳しい状況が続いているようである。

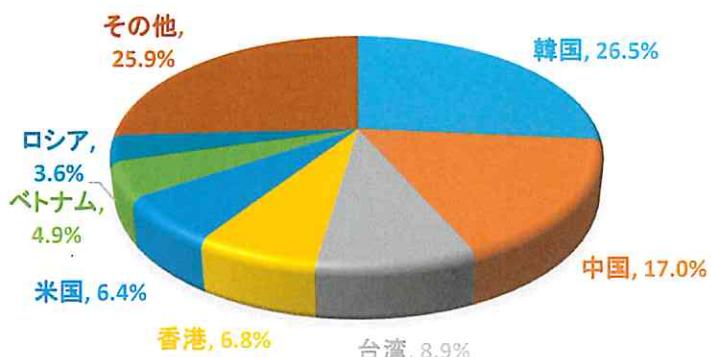
<出典：財務省貿易統計を基に作成>

● 2020上期国別輸出額

(単位：百万円)

国名	輸入金額	割合
韓国	13,665	26.5%
中国	8,751	17.0%
台湾	4,587	8.9%
香港	3,533	6.8%
米国	3,302	6.4%
ベトナム	2,549	4.9%
ロシア	1,872	3.6%
その他	13,364	25.9%
合計	51,623	

2020年上期国別輸出額

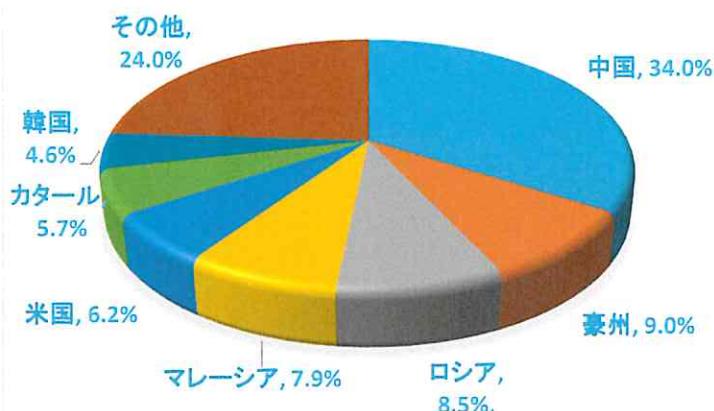


● 2020上期国別輸入額

(単位：百万円)

国名	輸入金額	割合
中国	77,434	34.0%
豪州	20,596	9.0%
ロシア	19,454	8.5%
マレーシア	17,904	7.9%
米国	14,157	6.2%
カタール	12,905	5.7%
韓国	10,475	4.6%
その他	54,684	24.0%
合計	227,609	

2020年上期国別輸入額



◆ 輸 出

(単位：百万円)

概況品目	2020上期	対前年比
食料品	522	67.3%
原料品	2,605	89.2%
化学製品	18,167	89.4%
原料別製品	13,651	98.5%
機械類及び輸送用機器	14,304	113.8%
その他	2,374	102.8%
合計	51,623	

2020年輸出額（対前年比）



◆ 輸 入

(単位：百万円)

概況品目	2020上期	対前年比
食料品	17,671	98.0%
原料品	6,711	71.5%
鉱物性燃料	75,205	69.4%
化学製品	31,197	105.6%
原料別製品	53,753	92.8%
機械類及び輸送用機器	21,433	91.9%
その他	21,639	81.8%
合計	227,609	

2020年輸入額（対前年比）



<出典：財務省貿易統計を基に作成>

◇ 2019年新潟港貿易概況

◆ 輸出

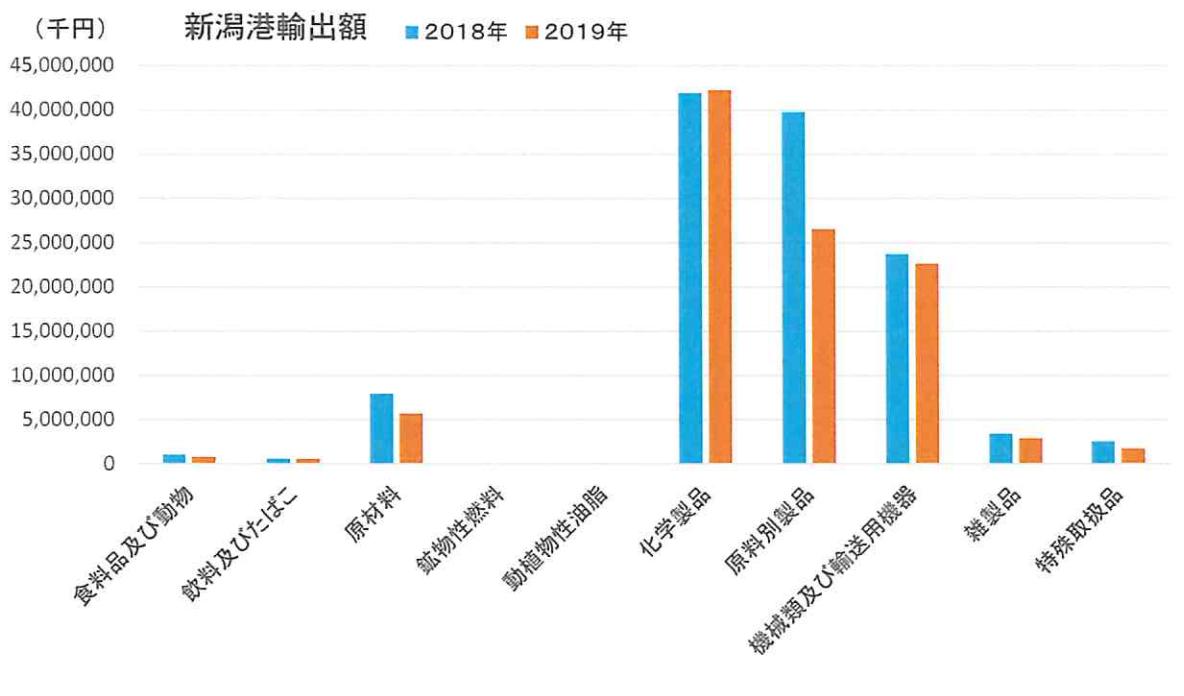
(単位:千円)

概況品目	2019年	前年	対前年比
食料品及び動物	811,488	1,071,176	75.8%
飲料及びたばこ	548,365	614,611	89.2%
原材料	5,675,284	7,965,115	71.3%
鉱物性燃料	24,277	40,230	60.3%
動植物性油脂	29,815	22,894	130.2%
化学製品	42,203,658	41,896,004	100.7%
原料別製品	26,530,511	39,741,372	66.8%
機械類及び輸送用機器	22,600,888	23,732,274	95.2%
雑製品	2,860,868	3,407,831	83.9%
特殊取扱品	1,721,092	2,549,120	67.5%
	103,006,246	121,040,627	85.1%

● 2019年国別輸出額

(単位:百万円)

国名	輸出金額	割合
韓国	25,042	24.3%
中国	20,230	19.6%
米国	9,177	8.9%
台湾	9,038	8.8%
タイ	4,516	4.4%
ベトナム	3,981	3.9%
香港	3,662	3.6%
その他	27,360	26.6%
合計	103,006	



2019年の新潟港の輸出額は約1,030億1千万円で、前年比85.1%、約180億3千万円の減額となった。国別に見ると1位は前年2位の韓国で約250億4千万円(24.3%)、2位は昨年1位の中国で約202億3千万円(3.6%)、3位は昨年同様に米国で約91億8千万円(8.9%)、以下、4位は昨年同様に台湾で約90億4千万円(8.8%)、5位は昨年7位のタイで約45億2千万円(4.4%)と続く。特筆されるのは、上位輸出国の輸出額が全て前年を下回る結果となったことであり、中でも中国への輸出額は昨年に比べ約63億円を超える大幅な減額となった。

輸出品目で見ると、動植物性油脂及び化学製品のように一部前年を上回る成果を上げた品目もあったが、他の品目は軒並み前年を下回る結果となった。特に原材料は約22億9千万円(28.7%)減、原料別製品は132億1千万円(33.2%)減と大幅に前年の輸出額を下回る結果となった。

原材料では前年に比べ、パルプ・古紙の約11億1千万円(47%)減、鉄鋼くずの約9億5千万円(23.4%)減が、原料別製品では、紙類・紙製品の約62億9千万円(29.8%)減、鉄鋼関係の約54億円(55.9%)減、非鉄金属の約9億5千万円(31.9%)減、金属製品の約8億8千万円(15.4%)減が大きなマイナス要因となっている。

また、機械類及び輸送用機器は前年に比べ約11億3千万円(4.8%)減となったが、インドネシア・韓国向けの鉄道用車両の輸出については、前年から約10億円(217.6%)輸出額を伸ばしている。

<出典:財務省貿易統計を基に作成>

◆ 輸入

(単位：千円)

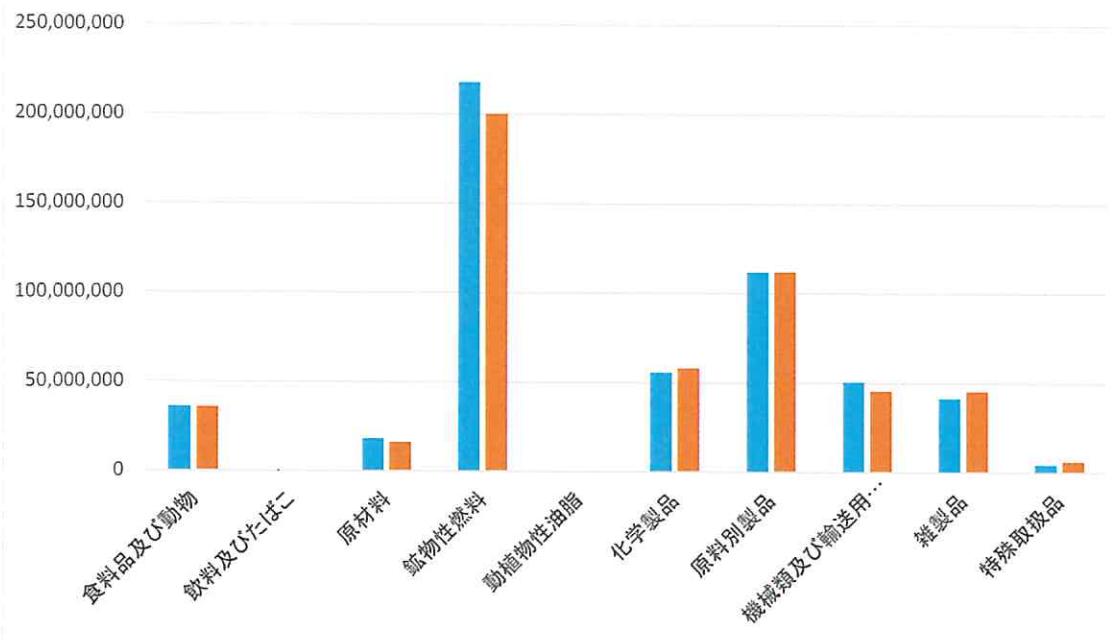
概況品目	2019年	前年	対前年比
食料品及び動物	35,557,311	36,123,341	98.4%
飲料及びたばこ	191,994	132,336	145.1%
原材料	16,131,747	18,140,579	88.9%
鉱物性燃料	200,067,474	217,776,947	91.9%
動植物性油脂	188,239	43,983	428.0%
化学製品	58,084,009	55,695,746	104.3%
原料別製品	111,877,364	111,966,876	99.9%
機械類及び輸送用機器	45,385,475	50,433,282	90.0%
雑製品	45,144,410	41,512,813	108.7%
特殊取扱品	5,960,941	4,391,947	135.7%
	518,588,964	536,217,850	96.7%

● 2019年国別輸出額

(単位：百万円)

国名	輸入金額	割合
中国	156,624	30.2%
マレーシア	54,196	10.5%
ロシア	51,196	9.9%
豪州	49,408	9.5%
米国	38,162	7.4%
韓国	26,506	5.1%
カタール	23,808	4.6%
その他	118,689	22.9%
合計	518,589	

(千円) 新潟港輸入額 ■ 2018年 □ 2019年



2019年の新潟港の輸入額は約5,185億9千万円で、前年比96.7%、約176億3千万円の減額となった。国別に見ると、前年同様1位は中国で約1,566億2千万円(30.2%)、2位はマレーシアで約542億円(10.5%)、3位は前年5位のロシアで約512億円(9.9%)と前年から約180億7千万円の大幅増を記録した。4位は前年3位の豪州で約494億1千万円(9.5%)であったが、前年から約107億9千万円の大幅な減額となった。5位は前年6位の米国で約381億6千万円(7.4%)であった。前年4位のカタールは前年から約110億7千万円と大きく減額し7位となった。3位以下の順位は、LNGの輸入元・輸入量により大きく左右されるようである。

輸入品目で見ると、輸入額は小さいが飲料及び動物性油脂が大幅に伸び、化学製品・雑製品も堅調な伸びを示した。反面、原材料・鉱物性燃料・機械類及び輸送用機器が前年からそれぞれ10%前後の減額となつたことから、輸入額全体としては前年を下回る結果となった。

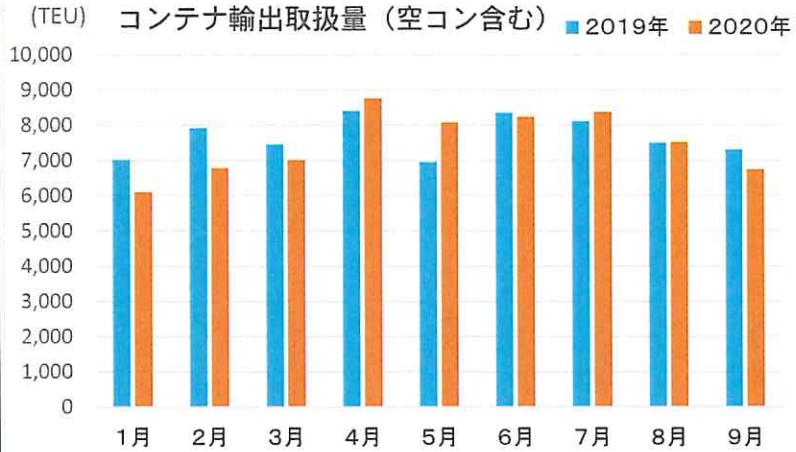
前年からの主な増額要因は、無機化合物の約60億6千万円(41.6%)増、自動車部品の約17億7千万円(56.2%)増、航空機類の約3億1千万円(56.5%)増、バッグ類の約36億3千万円(49.5%)増、衣類関係の約18億4千万円(38%)増などがあげられる。また、主なマイナス要因は、最大マイナス要因となったLNGの約174億9千万円(8.8%)減の他に、木材の約15億5千万円(19%)減、金属加工機械の約43億5千万円(46.5%)減、電気機器の約19億6千万円(11.2%)減などがあげられる。

<出典：財務省貿易統計を基に作成>

◇ 外貿コンテナ取扱量の推移（2020.1～9月までの前年との比較）

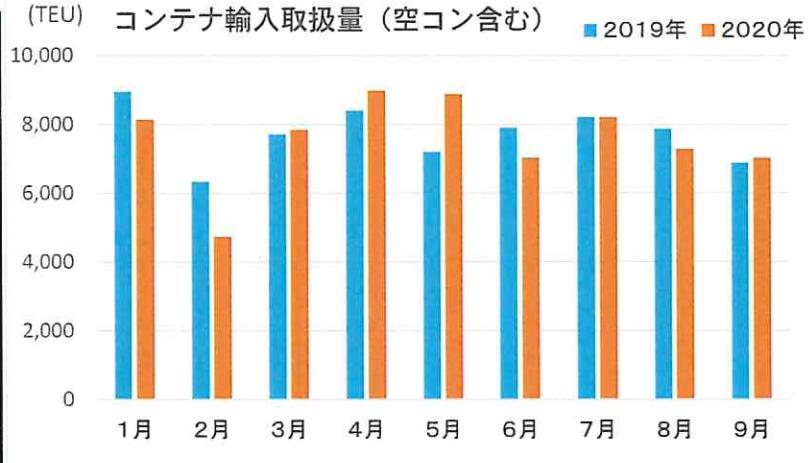
● 輸出

月	2019年	2020年	前年比
1月	7,022	6,102	86.9%
2月	7,924	6,785	85.6%
3月	7,455	7,014	94.1%
4月	8,410	8,760	104.2%
5月	6,956	8,078	116.1%
6月	8,350	8,234	98.6%
7月	8,109	8,378	103.3%
8月	7,496	7,516	100.3%
9月	7,312	6,740	92.2%
計	69,034	67,607	97.9%



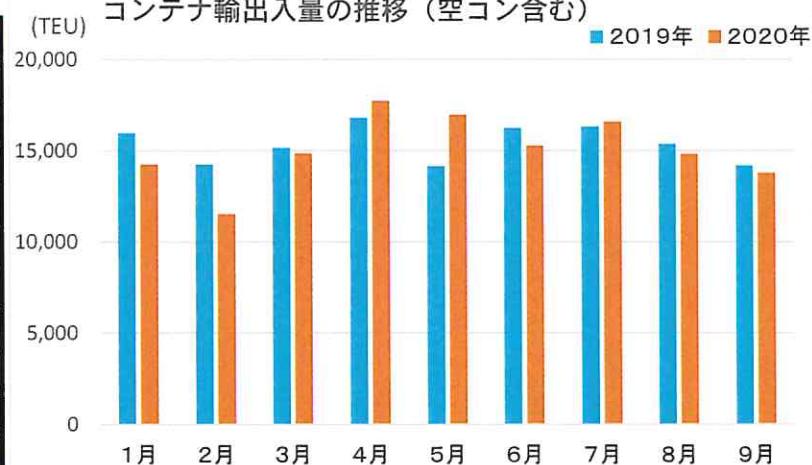
● 輸入

月	2019年	2020年	前年比
1月	8,948	8,142	91.0%
2月	6,329	4,728	74.7%
3月	7,707	7,836	101.7%
4月	8,396	8,974	106.9%
5月	7,195	8,881	123.4%
6月	7,899	7,027	89.0%
7月	8,207	8,196	99.9%
8月	7,864	7,276	92.5%
9月	6,870	7,019	102.2%
計	69,415	68,079	98.1%



● 輸出入合計

月	2019年	2020年	前年比
1月	15,970	14,244	89.2%
2月	14,253	11,513	80.8%
3月	15,162	14,850	97.9%
4月	16,806	17,734	105.5%
5月	14,151	16,959	119.8%
6月	16,249	15,261	93.9%
7月	16,316	16,574	101.6%
8月	15,360	14,792	96.3%
9月	14,182	13,759	97.0%
計	138,449	135,686	98.0%



2020年のコンテナ取扱量は、1月～8月までの累計で昨年に比べ輸出・輸入とも約2%前後の落込みとなった。

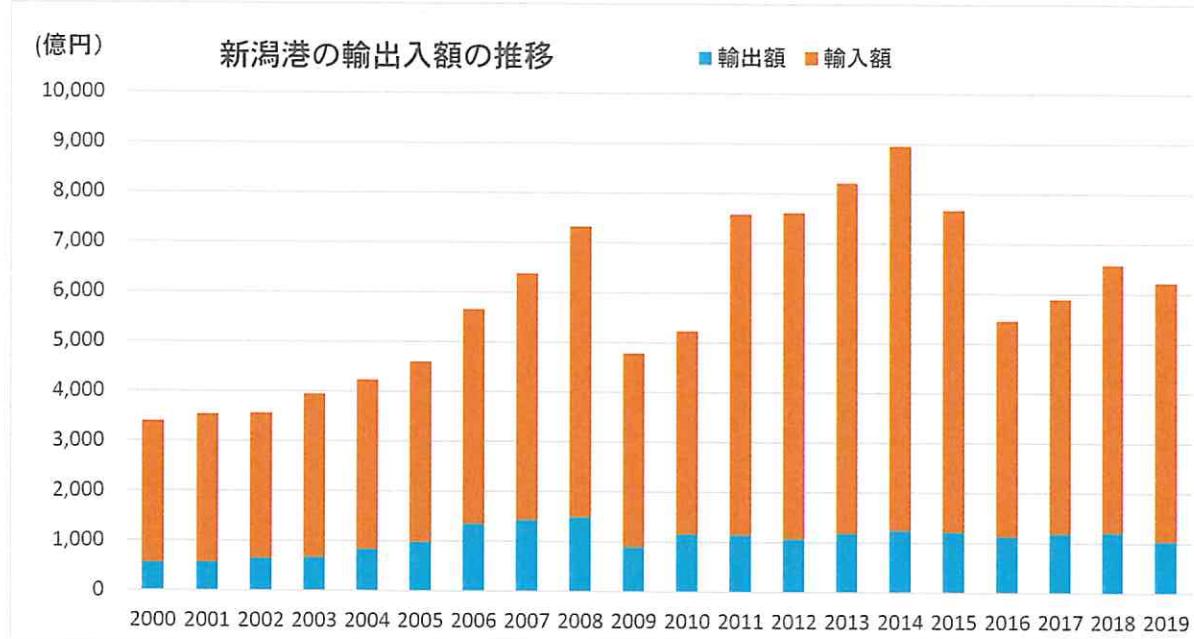
世界的な新型コロナウィルス感染拡大の影響等により、1・2月は前年から大きく落ち込んだが、3月以降は徐々に回復を見せ、4・5月は前年を上回る取扱量を記録した。6月には再び前年を下回る結果となつたが、その後は若干の増減はあるものの、ほぼ前年並みの取扱量となっている。

＜出典：株式会社 新潟国際貿易ターミナルのコンテナターミナルニュースを基に作成＞

◇ 新潟港の輸出入額の推移

(単位 : 千円)

西暦年	輸出額	対前年比	輸入額	対前年比	輸出入総額	対前年比
2000	56,483,832	—	282,578,520	—	339,062,352	—
2001	57,070,033	101.0%	295,848,632	104.7%	352,918,666	104.1%
2002	65,069,185	114.0%	290,592,595	98.2%	355,661,781	100.8%
2003	67,556,405	103.8%	326,795,475	112.5%	394,351,881	110.9%
2004	84,453,699	125.0%	337,901,770	103.4%	422,355,470	107.1%
2005	99,155,149	117.4%	360,094,894	106.6%	459,250,044	108.7%
2006	134,409,693	135.6%	430,597,289	119.6%	565,006,983	123.0%
2007	142,975,455	106.4%	494,402,598	114.8%	637,378,054	112.8%
2008	149,156,957	104.3%	582,343,578	117.8%	731,500,536	114.8%
2009	89,637,674	60.1%	387,700,800	66.6%	477,338,475	65.3%
2010	116,102,216	129.5%	406,607,973	104.9%	522,710,190	109.5%
2011	114,301,754	98.4%	643,432,967	158.2%	757,734,722	145.0%
2012	107,186,934	93.8%	653,333,092	101.5%	760,520,027	100.4%
2013	118,850,167	110.9%	701,891,747	107.4%	820,741,915	107.9%
2014	124,197,153	104.5%	770,811,063	109.8%	895,008,217	109.0%
2015	121,379,252	97.7%	645,516,506	83.7%	766,895,759	85.7%
2016	113,944,338	93.9%	431,393,379	66.8%	545,337,718	71.1%
2017	119,472,211	104.9%	468,553,113	108.6%	588,025,325	107.8%
2018	121,040,627	101.3%	536,217,850	114.4%	657,258,478	111.8%
2019	103,006,246	85.1%	518,588,964	96.7%	621,595,211	94.6%



新潟港の輸出入額は、2000年以降は右肩上がりに順調に伸びていた。しかし、2008年9月に端を発するリーマンショック等の影響により、翌年及び翌々年は大幅に輸出入額が落ち込んでしまった。

2011年3月には東日本大震災が発生し、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした。この際、新潟港は震災で被災した太平洋側港湾の代替利用港湾として輸出入額を大きく伸ばし、2014年には過去最大となる9,000億円に迫る輸出入額を記録した。2015年以降は震災特需の反動減もあり一旦大きく落ち込む結果となったが、2017年以降は増加傾向に推移していた。

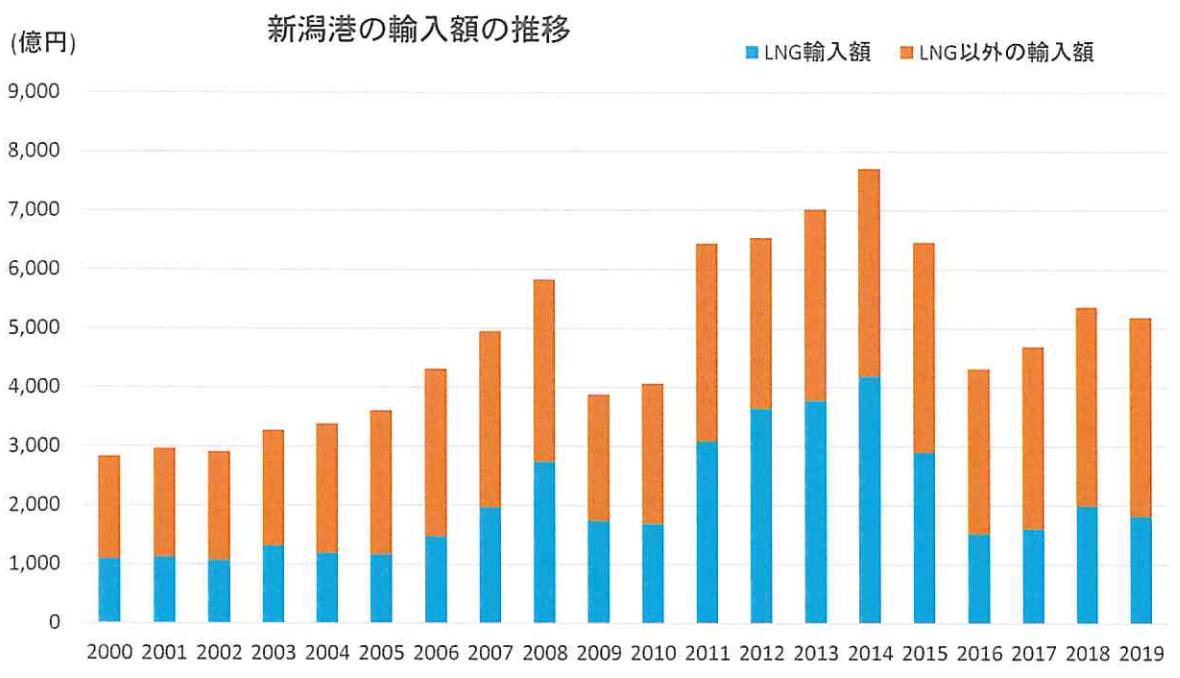
2019年は、紙類・紙製品及び鉄鋼関係の輸出の落込みやLNG及び金属加工機械などの輸入の落込みにより、前年をやや下回る結果となった。

<出典：財務省貿易統計を基に作成>

《※参考 新潟港の輸入額の推移》

(単位 : 千円)

西暦年	LNG 輸入額	対前年比	LNG 以外の輸入額	対前年比	輸入額合計	対前年比
2000	109,197,898	—	173,380,622	-	282,578,520	-
2001	113,259,114	103.7%	182,589,518	105.3%	295,848,632	104.7%
2002	107,563,850	103.7%	183,028,745	100.2%	290,592,595	98.2%
2003	132,042,753	95.0%	194,752,722	106.4%	326,795,475	112.5%
2004	119,457,797	122.8%	218,443,973	112.2%	337,901,770	103.4%
2005	117,511,479	90.5%	242,583,415	111.1%	360,094,894	106.6%
2006	147,177,501	98.4%	283,419,788	116.8%	430,597,289	119.6%
2007	197,038,194	125.2%	297,364,404	104.9%	494,402,598	114.8%
2008	274,211,367	133.9%	308,132,211	103.6%	582,343,578	117.8%
2009	174,050,523	139.2%	213,650,277	69.3%	387,700,800	66.6%
2010	169,319,897	63.5%	237,288,076	111.1%	406,607,973	104.9%
2011	308,990,077	97.3%	334,442,890	140.9%	643,432,967	158.2%
2012	364,389,365	182.5%	288,943,727	86.4%	653,333,092	101.5%
2013	377,754,026	117.9%	324,137,721	112.2%	701,891,747	107.4%
2014	419,463,598	103.7%	351,347,465	108.4%	770,811,063	109.8%
2015	289,956,674	111.0%	355,559,832	101.2%	645,516,506	83.7%
2016	152,491,597	69.1%	278,901,782	78.4%	431,393,379	66.8%
2017	160,990,257	52.6%	307,562,856	110.3%	468,553,113	108.6%
2018	199,704,418	105.6%	336,513,432	109.4%	536,217,850	114.4%
2019	182,217,153	124.0%	336,371,811	100.0%	518,588,964	96.7%



<出典：財務省貿易統計を基に作成>

事務局日誌（令和2年1月～9月）

1. 22 港湾関係団体新春賀詞交歓会（東京）	4.21 理事会
1. 23 港湾銀連盟総会（東京）	5.27 日本港湾協会総会（書面開催）
2. 1 会報「みなと新潟」NO. 92発行	6. 1 令和2年度定時総会（書面による議決権行使）
2. 7 第3回新潟港物流基礎講座（新潟テルサ）	6. 4 理事会（書面開催）
2. 23 理事会	7.10 新潟県港湾協会総会（書面開催）
2. 18 東北国際物流戦略チーム本部会（仙台市）	8.10 日本海北陸地区連合会総会（書面開催）

編集後記

日頃から当協会の活動にご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

令和2年は世界的に現在も感染拡大が続いている新型コロナウイルスから始まり、未だ収束の見通しが立たない状況が続いております。新聞やテレビなどで毎日のように新型コロナウイルスに関する報道がなされ、その報道内容を見聞きする度に先々の生活や景気に対する不安や心配が頭の中をよぎります。

6月1日に開催いたしました本年度の定時総会は、新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、事前の書面による決議をお願いいたしました。会員の皆様のご理解とご協力により全ての議案を可決することができました。

なお、このような状況のため、会員・役員並びに来賓の皆様が相互に交流・親睦を深めていただく貴重な機会でございます懇親会を見送りにせざるを得ない状況になったことは、事務局としてとても残念に思っております。

さて、本年度はコロナ禍の影響で開催が遅くなりましたが、11月12日（木）に新潟テルサを会場として当協会主催の「物流基礎講座」（第1回）を開催いたします。

今回は「東南アジア地域」に焦点をあて、新潟港を活用した貿易の振興について考えてまいります。これまで順調に経済発展を遂げ、国力を増してきたアセアン諸国ですが、ここにきて米中貿易摩擦やコロナ禍の影響に伴う世界的な需要の減退やサプライチェーンの混乱、国内外の活動制限措置などにより経済活動が大きく減退してしまいました。しかし、この地域はこれからまだまだ高い経済成長が見込まれる地域であり、今後の新潟港の振興にとって重要な交易ターゲットとなる地域であると考えられます。

「物流基礎講座」の開催については、当協会のホームページに掲載しております。講座の参加募集定員は、新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、例年より少ない30名といたします。

東南アジア地域（アセアン諸国）との交易について興味や関心をお持ちの企業・団体の方々の参加をお待ちしております。

みなと新潟
NO. 93

発行元 一般社団法人 新潟港振興協会 025-225-5851 FAX 025-227-3800
〒951-8061 新潟市中央区西堀通3-799 マンション西堀カメリA202 令和2年10月発行
URL <http://www.niigata-port.com>